

## 10. へき地医療

### 現状と課題

- 平成26年10月1日現在、山村過疎地域を中心に、道路交通事情などにより医療の確保が困難な無医地区\*1が1市7町で20地区、準無医地区\*2が1市3町で14地区あり、また、歯科医療の確保が困難な無歯科医地区\*1が2市9町で31地区、準無歯科医地区\*2が1市6町で15地区あります。

近年、道路交通事情の改善などにより、無医地区等は減少傾向にありましたが、近隣の医療機関の閉鎖や、公共交通機関の減便などにより、平成21年と比べて増加しました。

#### 〔 無医地区等の状況 〕

(単位：地区)

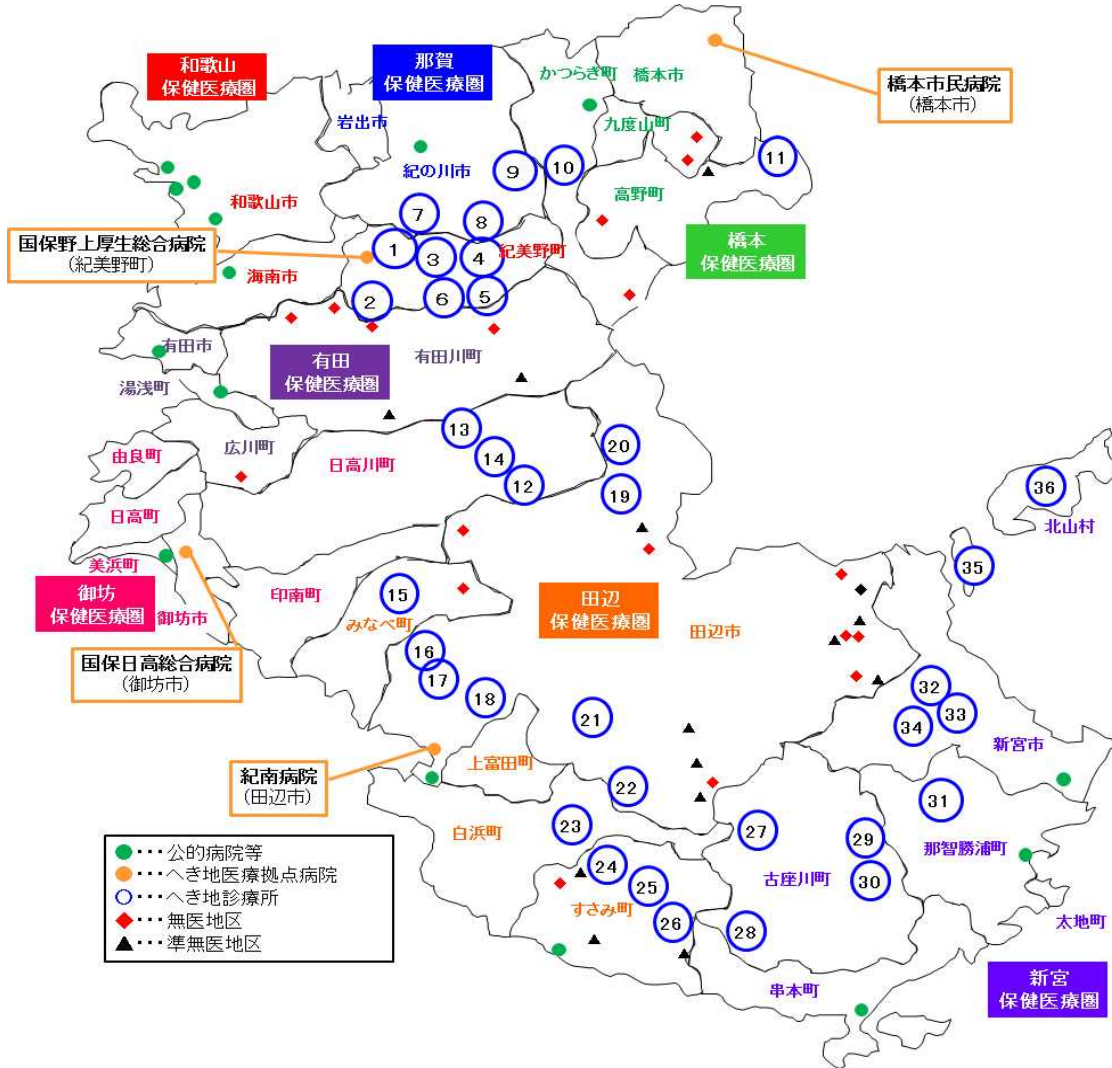
医療圏	無医地区			準無医地区			無歯科医地区			準無歯科医地区		
	平成 16年	平成 21年	平成 26年	平成 16年	平成 21年	平成 26年	平成 16年	平成 21年	平成 26年	平成 16年	平成 21年	平成 26年
和歌山	-	-	-	-	-	-	1	3	3	2	-	-
那賀	-	-	-	1	-	-	3	3	3	-	-	-
橋本	4	4	4	1	1	1	4	4	4	2	2	2
有田	7	6	6	1	2	2	7	6	6	1	2	2
御坊	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
田辺	7	5	10	4	7	11	8	6	10	6	8	10
新宮	-	-	-	2	-	-	9	6	5	2	-	1
合計	18	15	20	9	10	14	32	28	31	13	12	15

「無医地区等調査・無歯科医地区等調査」(平成16年は12月末日、平成21年及び26年は10月末日現在)

- 平成29年12月1日現在、13市町村が36ヶ所のへき地診療所\*3を設置するとともに、常勤医師がいないへき地診療所への定期的な医師派遣や巡回診療などを行い、へき地医療を支援する拠点病院として、県が4病院を「へき地医療拠点病院\*4」に指定し、安定的にへき地医療を提供しています。

また、民間医療機関によるへき地診療所への医師派遣など、へき地医療に対する新たな支援も行われています。

〔 へき地診療所・へき地医療拠点病院・無医地区等位置図 〕



〔 へき地診療所一覧 〕

番号	へき地診療所名	市町村名	番号	へき地診療所名	市町村名	番号	へき地診療所名	市町村名
①	志賀野診療所	紀美野町	⑬	寒川診療所上初湯川出張所	日高川町	⑮	佐本診療所	すさみ町
②	小川診療所		⑭	寒川診療所猪谷出張所	みなべ町	⑯	大鎌診療所	古座川町
③	真国診療所		⑮	高城診療所		⑰	七川診療所	
④	細野診療所		⑯	上芳養診療所	田辺市	⑱	三尾川へき地診療所	
⑤	長谷毛原診療所		⑰	秋津川診療所		⑳	田川へき地診療所	
⑥	国吉診療所		⑱	長野診療所		㉑	小川へき地診療所	
⑦	野田原へき地診療所	⑳	龍神湯ノ又診療所	㉒		色川診療所	那智勝浦町	
⑧	細野へき地診療所	紀の川市	㉑	龍神大熊診療所	白浜町	㉓	熊野川診療所	新宮市
⑨	鞆淵診療所	かつらぎ町	㉒	大塔富里診療所		㉔	熊野川歯科診療所	
⑩	天野診療所		⑳	大塔三川診療所	すさみ町	㉕	熊野川診療所附属小口診療所	
⑪	富貴診療所	高野町	㉑	川添診療所		㉖	熊野川診療所附属玉置口診療所	
⑫	寒川診療所	日高川町	㉒	大附診療所	⑳	北山村診療所	北山村	

〔 へき地医療拠点病院一覧 〕

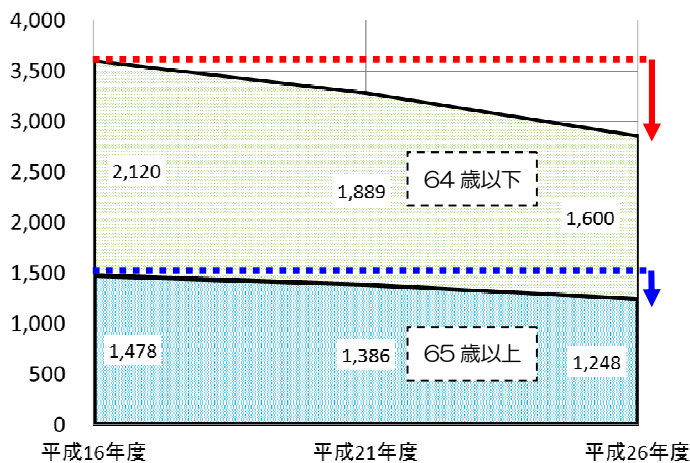
病院名	所在地	電話番号
国保野上厚生総合病院	海草郡紀美野町小畑 198	073-489-2178
紀南病院	田辺市新庄町 46-70	0739-22-5000
橋本市民病院	橋本市小峰台二丁目 8-1	0736-37-1200
国保日高総合病院	御坊市藺 116-2	0738-22-1111

〔 へき地医療を支援する民間医療機関 〕

医療機関名（法人名）	所在地	電話番号
角谷整形外科病院・角谷リハビリテーション病院（医療法人スミヤ）	和歌山市吉田 337 和歌山市納定 10-1	073-433-1161 073-475-1230

- 医療の確保が困難な無医地区等や、へき地診療所周辺地区の人口は減少する一方で、65歳以上の人口は増加し、へき地における高齢化が進んでいます。

〔 無医地区・準無医地区 年齢別人口構成 〕（単位：人）

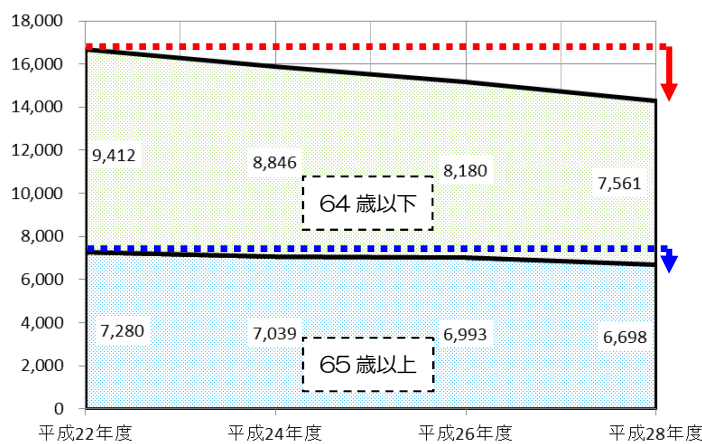


無医地区・準無医地区で64歳以下の人口減少数が65歳以上の人口減少数を上回り、高齢化が進んでいる。

「無医地区等調査」（平成16年度は12月末日、平成21年度及び26年度は10月末日現在）

《注》平成16年度、21年度、26年度調査で継続して無医地区・準無医地区に該当する22地区で比較

〔 へき地診療所周辺地区 年齢別人口構成 〕（単位：人）



へき地診療所周辺地区でも64歳以下の人口減少数が65歳以上の人口減少数を上回り、高齢化が進んでいる。

医務課調（平成22年度、24年度及び26年度は8月1日現在、平成28年度は12月末日現在）

《注》平成22年度から28年度まで継続してへき地診療所である34か所の周辺地区で比較

- 本県の医師数は、和歌山市内に集中し、無医地区やへき地診療所が所在する医療圏の多くで全国平均を下回り、へき地医療を支える医師の不足と地域偏在が生じており、その解消が必要です。
- 医師の地域偏在等を解消するため、自治医科大学卒業医師の配置や、県が指定したへき地医療拠点病院からの計画的な医師派遣を通じて、へき地医療に携わる医師の確保に努めてきました。
- 地域医療を支える人材として新たに確保した、和歌山県立医科大学地域医療卒業医師が、平成 28 年度から地域の中核病院に配置されるなど、へき地をはじめとした地域医療を最前線で支えています。
- へき地診療所において、既存の施設や設備の老朽化が課題となっており、その更新を支援するとともに、必要に応じた運営の支援を引き続き実施することが必要です。
- 重篤な救急患者を広域的に搬送し、救命率の向上と後遺症の軽減に効果を発揮しているドクターヘリは、救急医療の確保が困難なへき地においては、安全かつ安心な生活を送るために不可欠となっており、その安定的な運航を図る必要があります。
- 高齢化による疾病構造の変化に伴い、内科以外に整形外科や眼科、歯科等、需要診療科目が増加するなど、多様化するへき地医療のニーズへの対応には、従来から行っている医師派遣などを通じた「安定的なへき地医療の提供体制」に加えて、支援体制の充実を図る必要があります。
- 自家用車が主要な交通手段となっている無医地区等やへき地診療所周辺地区において、高齢化が進むと、医療機関への交通手段となっているコミュニティバスなど公共交通機関や患者輸送車の重要性はさらに増すため、その充実が必要です。
- 医療機関への移動が困難となるへき地の患者のため、在宅医療を選択できる環境を整備するなど受診機会を確保することが課題です。
- 無医地区等やへき地診療所が所在する保健医療圏では、医師の約3人に1人が60歳以上となっており、医師の高齢化が進んでいる中、地域医療を支えるために配置された自治医科大学卒業医師など若手医師が、へき地医療に従事しながら、キャリアを形成できる環境の整備が必要です。
- 現在、へき地診療所の看護職員は不足の状況にあり、本県では2030（平成42）年頃に75歳以上の高齢者人口がピークに達する見込みの中、看護職員の需要はさらに高まり、その確保が必要となります。

## 【課題項目】

- ① 安定的かつ質の高いへき地医療提供体制の整備
- ② 多様化するへき地医療のニーズへの対応と受療機会の確保
- ③ へき地医療を支える医療従事者の確保

## 施策の方向

### (1) 安定的かつ質の高いへき地医療提供体制の整備

- 和歌山県へき地医療支援機構<sup>※5</sup>が中心となって、安定的にへき地医療を提供するため、へき地医療拠点病院からへき地診療所へ医師派遣の調整を行うとともに、へき地医療拠点病院の指定を推進します。
- 従来のへき地医療拠点病院やへき地診療所によるへき地医療の確保に加えて、民間医療機関による医師派遣などへき地医療への支援を推進します。
- 必要に応じて、へき地診療所の施設や医療機器整備、運営を支援します。
- へき地の救急患者に対する救急医療提供体制を構築するとともに、三次救急医療機関への緊急的な搬送を担うドクターヘリの安定的な運航を図ります。

### (2) 多様化するへき地医療のニーズへの対応と受療機会の確保

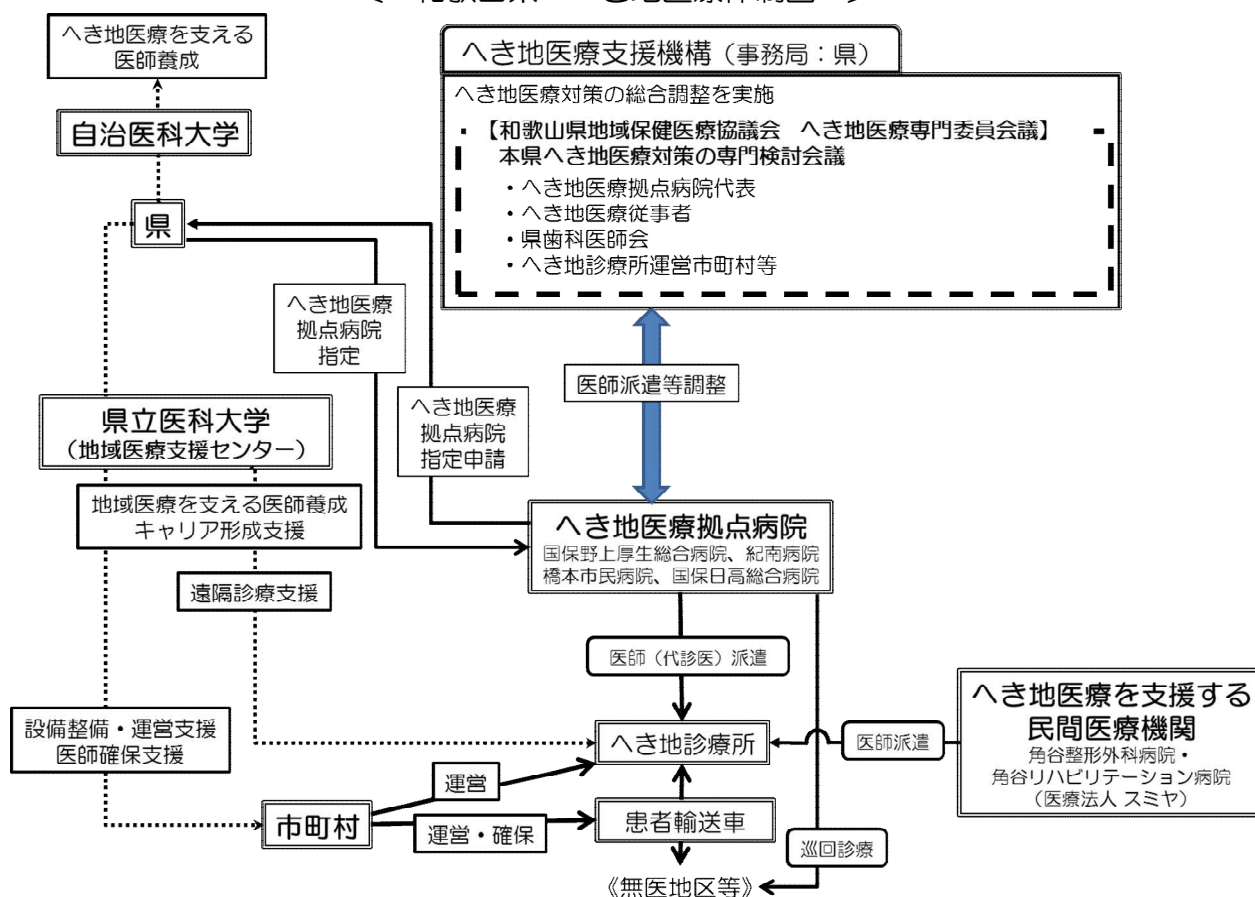
- 需要診療科目の増加など、多様化するへき地医療のニーズに対応するへき地診療所勤務医師への効果的な診療支援を行うため、へき地診療所のテレビ会議システムの導入を支援します。
- へき地診療所等への交通手段がない患者の受療機会を確保するため、引き続き患者輸送車の整備及び運行を支援します。
- 外来受診が困難な患者の受療機会を確保するため、特定行為を行うことができる看護師の養成を支援するなど在宅医療の提供体制を強化していきます。
- へき地の歯科医療について、県歯科医師会との連携のもと、住民への歯科医療・口腔ケア等の重要性を周知し、意識向上を図るとともに、把握が難しい在宅歯科医療の需要が歯科医療機関にスムーズに伝わる体制を構築します。

### (3) へき地医療を支える医療従事者の確保

- 自治医科大学、和歌山県立医科大学地域医療枠及び近畿大学医学部和歌山県地域枠の卒業医師を、効果的にへき地診療所やへき地医療拠点病院に配置します。

- 本県のへき地医療を支える医療機関で勤務を希望する医師に対し、「青洲医師ネット」を通じ、紹介事業を引き続き実施します。
- 地域医療支援センターにおいて、テレビ会議システムを用いた遠隔聴講や研修会を開催するなど、へき地診療所に勤務する若手医師へのキャリア形成を支援します。また、へき地医療を支える医師の県内への定着に努めます。
- 和歌山県へき地医療支援機構が中心となって、へき地診療所等が就業場所の選択肢となるよう、へき地医療の取組や魅力を県内外に積極的に発信し、看護職員や薬剤師等の確保につなげます。また、へき地診療所等の看護職員の確保については、へき地医療拠点病院等と連携した確保対策のシステムを検討します。

〔 和歌山県 へき地医療体制図 〕



## 数値目標

### (1) 安定的かつ質の高いへき地医療提供体制の整備

項目	現状	目標(2023年度)	設定の考え方
へき地医療拠点病院の指定数	4 病院 (2017 年度)	7 病院	無医地区等・へき地診療所が所在する二次医療圏に1か所以上指定し、安定的なへき地医療を提供する

### (2) 多様化するへき地医療のニーズへの対応と受療機会の確保

項目	現状	目標(2023年度)	設定の考え方
遠隔診療支援システムを導入したへき地診療所が所在する二次医療圏数	2 圏 (2017 年度)	6 圏	テレビ会議システムを整備するへき地診療所を増加させ、多様化するニーズへの対応可能なへき地医療体制を構築する

### (3) へき地医療を支える医療従事者の確保

項目	現状	目標(2023年度)	設定の考え方
へき地診療所・へき地医療拠点病院等への医師配置数	22 人 (2017 年度)	60 人	へき地診療所・へき地医療拠点病院に、自治医科大学・和歌山県立医科大学地域医療枠・近畿大学医学部和歌山県地域枠卒業医師を効果的に配置し、へき地医療を支える

## ■用語の説明

### ※1 無医地区・無歯科医地区

医療機関のない地区で当該地区の中心的な場所を起点として、おおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ、容易に医療機関・歯科医療機関を利用できない地区。

### ※2 準無医地区・準無歯科医地区

無医地区・無歯科医地区には該当しないものの、それに準じた医療・歯科医療の確保が必要な地区と各都道府県知事が判断し、厚生労働大臣に協議して適当と認めた地区。

### ※3 へき地診療所

半径4km以内に他の医療機関がなく、原則人口1,000人以上で、最寄りの医療機関まで通常の交通機関を利用して30分以上要する区域又はこれに準ずると都道府県知事が判断し、厚生労働大臣と協議し、適当と認められた地区に市町村等が設置する診療所。

### ※4 へき地医療拠点病院

無医地区等を対象として、へき地医療支援機構の指導・調整のもと、へき地診療所への医師派遣等へき地医療の確保を継続的に実施できると認められる病院。(県指定)

### ※5 へき地医療支援機構

へき地診療所への医師派遣等広域的なへき地医療支援事業の企画・調整等を行い、へき地医療対策の各種事業を円滑かつ効率的に実施するために県が設置した機関。



## 〔 無医地区等一覧 〕

保健医療圏	市町村名	地区名	世帯数(世帯)	人口(人)	うち65歳以上人口(人)	無医地区等			
						無医地区	準無医地区	無歯科医地区	準無歯科医地区
和歌山	紀美野町	円明寺	46	82	52			○	
		田	145	230	143			○	
		毛原宮	299	586	307			○	
那賀	紀の川市	鞆瀬	286	595	313			○	
		奥安楽川	356	803	393			○	
		細野	58	101	71			○	
橋本	かつらぎ町	上花園	55	101	59	○			
		上花園・下花園	198	365	187			○	
	九度山町	東郷・北又	69	75	51	○		○	
		丹生川・市平	61	90	51	○		○	
	高野町	笠木	14	26	20				○
		花坂 湯川	77	181	73	○			
有田	有田川町	杖ヶ藪	6	9	9		○		○
		富貴	287	522	340			○	
		上六川	34	90	38	○		○	
		北	61	122	57	○		○	
		生石	80	168	93	○		○	
		二澤・北野川	51	77	59	○		○	
		沼谷	36	55	40	○		○	
	広川町	宇井苔	22	32	22		○		○
		上湯川	20	34	25		○		○
		津木	331	880	316	○		○	
田辺	みなべ町	軽井川・大川・名ノ内	172	579	178	○			○
		高城・清川	665	2,051	706				○
	田辺市	丹生ノ川	32	58	37	○		○	
		小家	83	159	69	○		○	
		木守	66	80	26	○		○	
		伏拝	190	357	183	○			
		三越	34	53	33	○			
		小々森	28	51	23	○			
		皆地	78	128	69	○			
		静川	66	109	65	○			
		三ツ又	11	17	9		○		○
		五味	14	17	9		○		○
		熊野	15	21	16		○		○
		和田	8	13	13		○		○
		曲川	9	18	9		○		
		武住	12	19	10		○		○
		藁尾谷	7	15	10		○		○
		龍神	93	196	103			○	
	小又川	42	96	32			○		
	湯ノ又	81	177	71			○		
甲斐ノ川	115	243	91			○			
白浜町	川添	189	377	198			○		
すさみ町	太間川	32	56	34	○		○		
	小河内	20	33	22		○		○	
	大附	11	13	9		○		○	
	大鎌	7	12	8		○		○	
	和深川	25	42	32		○			
	佐本	164	246	176			○		
新宮	古座川町	小川	81	137	93			○	
		三尾川	189	320	184			○	
		下露・西川	114	201	130			○	
		佐田・添野川	87	143	94			○	
		平井	124	124	95			○	
		松根	34	46	40				○

(平成26年10月現在)

# 「へき地医療」の概要

## 現状と課題

### 《現状》

○へき地診療所36ヶ所、へき地医療拠点病院4ヶ所が安定的なへき地医療を提供。

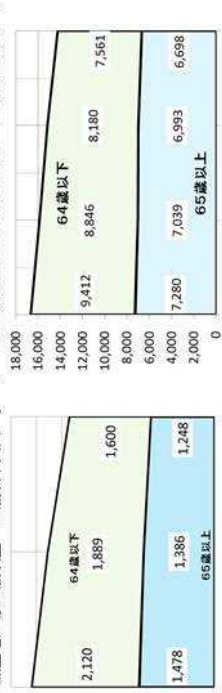
医療圏	和歌山	那賀	橋本	有田	御坊	田辺	新宮	合計
診療所・病院	6	3	2	-	3	12	10	36
へき地診療所	6	3	2	-	3	12	10	36
へき地医療拠点病院	1	-	1	-	1	1	-	4

○自治医科大学卒業医師のへき地診療所等への計画的な派遣の実施

○減少傾向にあった無医地区等が公共交通機関の減便等で増加

地区名	平成16年	平成21年	平成26年	平成30年
無医地区	18	15	20	3,500
準無医地区	9	10	14	3,000
無歯科医地区	32	28	31	2,500
準無歯科医地区	13	12	15	2,000
無無医地区	-	-	-	1,500
無無歯科医地区	-	-	-	1,000
無無診療所や無医地区のある医療圏における医師の高齢化	-	-	-	500
合計	72	64	74	15,500

○無医地区等やへき地診療所周辺地域住民の高齢化とそれに伴うニーズの多様化(需要診療科目の増加など)



### 《課題》

安定的かつ質の高いへき地医療提供体制の整備

多様化するへき地医療のニーズへの対応と受療機会の確保

へき地医療を支える医療従事者の確保

## 主な施策の方向

- へき地医療拠点病院の指定の推進
- 民間医療機関によるへき地医療支援の推進
- へき地診療所の医療機器整備や運営を支援
- ドクターヘリの安定的な運航

- テレビ会議システム導入支援によるへき地診療所勤務医師への遠隔診療支援
- へき地診療所への患者輸送車整備・運行支援
- 在宅医療の提供体制の強化
- 歯科医療・口腔ケアの重要性の周知

- 自治医科大学、和歌山県立医科大学地域医療枠及び近畿大学和歌山県地域枠卒業医師のへき地診療所等への効果的な配置
- 地域医療センターによるテレビ会議システムを用いた遠隔購読などを通じたキャリア形成支援
- へき地医療の取組や魅力の発信

## 主な数値目標(2023年度)

・へき地医療拠点病院の指定数  
2017(H29) 4病院 → 7病院

・遠隔診療支援システムを導入したへき地診療所が所在する二次医療圏数  
2017(H29) 2圏 → 6圏

・へき地診療所・へき地医療拠点病院への医師配置数  
2017(H29) 22人 → 60人